

米国の継承日本語教育学校紹介

連絡先		
学校名（またはプログラム名）ウェブサイト	学校所在地（例 カリフォルニア州ロサンゼルス）	連絡担当者のお名前とメールアドレス
United Nations International School (UNIS) www.unis.org	ニューヨーク州ニューヨーク市マンハッタン	津田 和男 ktsuda@unis.org

学校について	
学校（あるいはプログラム）の設立の年と設立の背景	1947年、国連勤務の父母が、自分達の子供に多様な文化遺産を継承し、国際教育を施すために設立された。1974年、日本人父母の要請により、12言語提供されていた放課後プログラムの一つとして日本語教育が始まった。同年、国際バカロレア（IB）のディプロマプログラムの中で日本語が組み込まれた。
教育目的とゴール	UNISの理念は、国連勤務の父母を持つ子供を中心に、幼稚園から12年生までの生徒に対して、質の高い学問と、国際教育を提供することである。また、人類と文化の多様性を尊い、学習と教育が可視できる環境を作り上げ、国連憲章の精神と理念を育むグローバルなカリキュラムの提供を促進している。
学校運営資金、資金の支援組織・団体（もしあれば）	生徒の授業料、国際連合、各国政府
学校の組織（例 理事会、父母の会、教師会など）	理事会、父母会、各学科
学校施設（例 公立の高校の施設を有料で借りている、コミュニティーセンターを無料で使用）	

家庭数
生徒数は約1850人
日本語を履修している生徒は約100名
そのうち母国語／継承語として日本語を履修している生徒は約40名
日本語を履修していない生徒が約10～20名

子どもの言語背景			
日本語だけを話す	日本語と英語（または他の言語）を話す、日本語の方が多く:	日本語と英語（または他の言語）を話す、英語（または他の言語）の方が多く	英語（または他の言語）だけを話す。(家庭では日本語は使われていない)
約__5__%	約__40__%	約__35__%	約__20__%

授業数		
授業のある曜日	授業時間（一日の総時間）	授業のコマ数(例 1 時間目：8:45-9:30)
1年生から6年生は月・水・金	1時間	放課後のプログラムとして提供 3:20 - 4:20
7年生から12年生は8日間スケジュールのため変動する		1時間50分と70分授業があり、8日間で310分を費やす。11年生、12年生はIBのディプロマプログラムを履修しているため、レベルによって70分増える
授業内容について特記することがある場合、ここにご記入ください。		

日本語のコースについて		
コースの種類 (記入例 継承語(日本語を家庭で話す児童のための)コース、親は日本語母語話者であるが日本語を話さない子どものためのコース、外国語としての日本語のコースなど)	レベル (記入例 幼児部)	各レベルの学習者数(過去3年の平均) (記入例 15名)
Mother Tongue/JHL Class	1-6年生アフタースクール	10名
	7年生	4名
	8年生	5名
	9年生	3名
	10年生	1名
	11年生 IB Lang. A	3名
	12年生 IB Lang. A	4名
JFL Class	1-6年生アフタースクール	2名

3 rd Language Class	7年生	9名
	8年生	17名
	9年生	14名
	10年生	13名
	11年生 IB Lang. B	7名
	12年生 IB Lang. B	5名

教師				
教師数	給料が支払われるTA (アシスタント) 数	ボランティアのTA数	教師のバックグラウンド (記入例 日本の幼稚園免許保持者 XX名、アメリカの教員免許保持者 XX名、など)	教師研修の有無 (記入例 学校独自のもの: 年2回 継承語学校対象のもの: 年1回 地域の日本語教育一般のもの: 年1回)
3名		1名	アメリカの教員免許保持	学校独自のもの: 年3回 教師会(NECTJ)のもの: 年5回
教師に関して追加情報がある場合、ここにご記入ください。				

教材 (上記各レベルで使用の教材。教科書があればタイトルと出版社名を記入してください。自作教材を使用の場合、内容を説明してください)	
レベル	教材
Mother Tongue/JHL Class 1-6生	テーマを決め、教師の開発した教材を使用。ハンズオンの活動や、演劇、行事や文化学習も行う。
Mother Tongue/JHL Class 7-12年生	主に物語や、文学を教える。中学生例: 羅生門、注文の多い料理店、銀河鉄道の夜。高校生例: 言文一致運動、帝国主義、啓蒙主義、時間論
JFL Class 7-12年生	きせつ教科書シリーズ「春一番」、「銀河」 独自で開発した教材を使用。トピック例: 環境問題、第二次世界大戦、栄養、アニメキャラクターの性格

教育機器・テクノロジー（学校で使用している機器やテクノロジーを記入してください）

学校が「1:1 Program」を 2013 年から始め、5 年生以上は MacBook Air が支給され、毎日使用している。4 年生以下は iPad を使用しているが、毎日使っているわけではない。学校のどの教室にも電子黒板が完備されている。

日本語科は、独自に iPad を 25 台、iPod を 20 台、MacBook Pro 8 台、iMac 1 台、プロカムコーダー 1 台、プロジェクター 1 台を所有している。

評価方法（どのように学習者の学習到達度を測っているか）

学期ごとに以下の項目を評価する：

25% Quiz, daily oral work (dialogues and oral presentations)

25% Class work, homework, effort, and attitude

25% Unit exams and long-term project

25% Internal assessments

現地の学校との連携の有無（例 日本語クレジットテストを実施し、パスすると現地の高校の外国語のクレジットがもらえる）

日本文化を教えるための行事や活動（年間を通してどのようなことをしているか）

お正月の活動：書き初め、餅、福笑い

日本のスーパーマーケット、裏千家、Japan Society に遠足

アフタースクール：大豆作り、茶道体験、書き初め、節分、ひな祭り、子どもの日
教師会(NECTJ)の春祭りへの参加

その他（上記項目以外の追加情報があれば記入してください）